

会 議 録

会 議 の 名 称	第2回宍粟市地域創生戦略委員会	
開 催 日 時	平成27年5月21日（木）14時00分～16時00分	
開 催 場 所	宍粟市役所本庁舎 3階 庁議室	
議長（委員長・会長）氏 名	林 昌彦	
委 氏 員 名	（出席者） 林昌彦、三渡圭介、玉田恵美、岡本一也、長田博、春名千代、田口すみ子、山田寛、古根川淳也、柏野茂樹	（欠席者）
事 務 局 名 氏	宍粟市：西山参事 企画総務部：中村部長、世良次長 地域創生課：西川副課長、前平主事	
傍 聴 人 数	3名	
会議の公開・非公開の区分及び非公開の理由	<input checked="" type="checkbox"/> 公開・非公開	（非公開の理由）
決 定 事 項	（議題及び決定事項） 1．開会 2．委員長あいさつ 3．説明 宍粟市人口ビジョン（案）について 4．質疑 5．その他 第3回宍粟市地域創生戦略委員会の開催日 6．閉会 決定事項 人口ビジョンとして2060年に3万人以上を達成できるように総合戦略の議論を進めていくこととする。	
会 議 経 過	別紙のとおり	
会 議 資 料 等	別紙のとおり	
議事録の確認（記名押印）	（委員長等） _____	

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容
事務局	1. 開会
委員長	2. 委員長あいさつ 大変お忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。 本日は宍粟市人口ビジョン(案)についての検討を行います。前回、説明がありました。この委員会が検討すべき課題についてもう一度確認しておきたいと思っております。グリーンファイルの62ページの、国が示した地方人口ビジョン策定のプロセスのイメージにあるとおり、人口ビジョンは総合戦略と整合をとりながら一体的に作っていきます。今日の議論は、そのうちの人口ビジョンについて、現状の分析から、どういう課題に取り組んでいくのかということが中心になると思っております。 では、早速協議に入りたいと思っております。
事務局	3. 説明 (事務局より資料を基に説明)
委員長	4. 質疑 現状分析とビジョンに分けて議論したいと思っております。まず、9ページまでの現状分析の部分について、ご質問、ご意見はありませんか。
委員	6ページのグラフの見方について、折線グラフの「林業」の値は左側の人数を見ればいいのですか。
事務局	左側は棒グラフの値です。折れ線グラフの値は右側となります。
委員	右側の数値は何を表しているのですか。
事務局	産業別の特化係数というものを表しています。宍粟市は人口が少ないにもかかわらず林業に就業している人の割合が特に高いということが分かります。
委員	「複合サービス事業」も係数が高いですが、具体的にはどのような業種が含まれるのですか。

事務局	6 ページの本文の下から 2 行目に書いているとおり、農業協同組合等となっております。
委員	これは市内の人が市内の事業所に就業している数ですか、それとも、市外の事業所に行っている人も含まれているのですか。
事務局	このグラフは市内在住者が市内・市外に就業されている人数のデータです。
委員長	宍粟市内でどの分野でどれだけの雇用があるのかというデータや、市外に住んでいる方で宍粟市内に勤務している方のデータはありますか。
事務局	調査します。
委員	正規雇用と非正規雇用の状況は分かりますか。
事務局	調査します。
副委員長	8 ページの人口推移増減分布図について、概ね想像していた通りであるが、山崎の中心部のみが増えているという状況に、あらためてショックを受けています。北部の方が山崎や市外に移住される理由としては、利便性、交通アクセス、医療、学校など色々あるとは思いますが、何が一番大きな要因なのかという調査をされたことはありますか。
事務局	第 2 次総合計画のアンケートの中には、直接そのことを問う設問はありませんでしたが、市民や若者の声としてよく聞くのは、雇用の場が少ないこと、医療体制が充実していないこと、市内に鉄道が通っていないことを含めた交通の便の 3 つがよく挙げられます。この 3 つが大きな要因ではないかと思っております。
副委員長	医療については、平成 24 年の調査では医師数の全国平均が 10 万人に対し 237 人で、播磨全体でもこれを大きく下回っているというデータが出ています。宍粟市はさらに少なく、これは市民の努力ではどうにもならない部分があります。今のままでは、さらに減少していく一方だと思われるので、市として、出て行かれる部分をどう阻止していくかという点も大事な課題だと思います。

副委員長	<p>1ページの「雇用や就労の状況」の、「男女ともに林業の就労割合が高いことが特徴的である」という文章について、6ページのグラフの説明を聞いて趣旨は分かりましたが、昔は宍粟郡内に120の製材所があり、約2,000人、人口の20%の人が林業関係に従事していました。その時代であれば「林業の就労割合が高い」と言えますが、現状のわずか200人くらいでは「高い」という評価は当てはまらないと思います。</p>
委員	<p>4ページに「周辺市町への人口移動の状況」が示されていますが、併せて、市内での人口移動の状況も示していただくと参考になると思います。</p>
事務局	<p>次回にお示ししたいと思います。傾向としては、山崎に移動が集中していません。</p>
委員	<p>総合計画(案)の中に、人口流出に歯止めをかける人口のダムという考え方で、旧町単位で中心部に1つダムをつくり、2つ目のダムを山崎町につくるというようなことが書かれていましたが、それがこのデータに合致してくるのだろうと思います。具体的な対策としては、例えば住宅施策で北部に市営住宅つくっていくなど、何らかのプランが総合計画の中では挙がっているのですか。</p>
事務局	<p>山崎町には民間の賃貸物件が普及していますが、北部にはそういう住宅事情でないことから、行政により住宅を整備してきました。しかし、人口が減少傾向にあることから、市営住宅を増やす計画は現在ありません。今は空き家が非常に増えていますので、空き家を利活用していくということが1つのポイントになるだろうと考えています。</p>
委員長	<p>総合計画でも、高齢者の介護の問題をはじめいろいろな問題があるため、構想の具体化という点ではまだ不十分というのが現状で、ビジョンとして、住み続けられるようなまちづくりの核をいかに作るかを考えているところです。そのことと、この戦略とをいかに組み合わせていくかが、これからの宍粟市のあり方を左右するのではないかと思います。</p> <p>他にご意見がなければ、次に、10ページ以降の具体的な宍粟市の将来展望、人口ビジョンについて、ご意見、ご質問はありませんか。</p>
委員	<p>2040年の出生率を2.3に想定するということですが、昭和60年に2.3だった時の転出・転入の状況や総人口が分かれば、参考に教えていただきたいと思います。</p>

事務局	調べて報告します。
委員	社会増減について、社人研の推計では2010年が 327、2015年が 212と、だんだん減ってくるようなグラフになっていますが、実際、2015年はこの推計のように100人くらい減っているのですか。
事務局	これは10月1日を基準日とした数値で、確定するのは来年以降になるのですが、大体これと前後するくらいの状況だと思います。
委員	減っているというのは、市全体の人口が減少したからですか、それとも、宍粟市に残る人が減っているのですか。
事務局	市全体の人口も減っていますし、かつ、転出も多いという状況です。
委員	若い人や学生の数も減っています。
副委員長	昨日、宍粟市の昨年の1月1日～12月31日の地区別の出生数のデータを見せてもらって驚いたのですが、千種9人、波賀13人、山崎180人、一宮が確か39人という数字でした。山崎も、昔は山崎中学校だけでも260人ほどいたのが、今は5つの中学校区合わせて180人ということで、出生数が少ないことも大きな問題です。出生数については、結婚しない人が増えていることも含めて、トータル的に対策を講じる必要があると思うので、この点に関するデータも出していただければと思います。
事務局	データは次回までに準備したいと思います。ご指摘のとおり、今は出生数が非常に少なくなっており、以前は300人以上であったのが、平成24年度から300人を割り、今もなお下降傾向にあります。
委員	出生率を2040年に2.3まで上昇させるとありますが、この目標はハードルが高過ぎるような感じます。目標年度を2040年とした根拠は何ですか。
事務局	第1回の会議の中で、第1次ベビーブーム、第2次ベビーブームという話をしましたが、お子さんが生まれ、育て、次の世代にいくという周期が25～30年となることから、25年後の2040年と設定しました。3人目が産まれた世帯を支援するというような戦略も一つと考えており、2040年に2.3まで上昇させ

	<p>たいと考えています。</p>
委員	<p>出生率というのは、仮に、来年からどんどん人口減少対策の施策を打って3人目を産む人が増えたとしても、1、2年では数値は上がらないものなのか。</p>
事務局	<p>5年に1度の国勢調査の中で傾向を見ていくのですが、やはり、効果が出るのには相当の年数がかかるようです。国のほうも2030年に1.8、2040年に2.07という形でビジョンを掲げています。</p>
委員	<p>まず婚姻率が上がらなければならず、婚姻しても子どもが産まれるまでには最低1年はかかります。そういうことを考えると、どんな良い施策を講じても、かなりの年数はかかるだろうと思います。</p>
委員	<p>家庭の事情もあるので、全ての世帯が3人の子どもを持てるわけでもありません。2010年の市の出生率1.58を2.3までにするためには、25年後の宍粟市を、子どもを3人産みたくなるような未来展望の明るい市にするということが一番の課題だと思います。社会減少を止めるという意味でも、魅力ある宍粟市をどうキープしていくかということが非常に重要だと思います。</p> <p>現状分析のところ、若い女性の動きがあまり見えませんでした。高校を卒業する段階で県外に出て行って、その後、22、23歳になった時にどのくらいの女性が宍粟市に戻ってこられているのでしょうか。若い女性がいなければ、若い男性がいくらいても結婚はできませんので、女性の雇用の場とか、若い女性が宍粟市に移住するような策についても考えていく必要があると思います。</p>
委員	<p>とにかく若者は山崎に住みたがりです。それは、農業に魅力がないからだと思うので、若者が農業を継ぎたくなるような施策もやっていただきたいと思います。</p> <p>また、宍粟市は給与水準が低く、山崎に住むとなると、家賃が高くて生活が苦しく、結婚もままならないというのが実情なので、そういうところにも目を向けないといけないと思います。公務員や議員の方は給料が高いので、それを市民のほうに回していただくなどすれば、みんなのための政治をしてあげると市民は感じると思います。そういう、変えていくという雰囲気をつくらないと、人口の問題はいつまでたっても解決しないと思います。</p>
委員長	<p>宍粟市のラスパイレス指数は100を切っていると思います。</p>

委員	しかし、地元の下請けの会社等の給料と比べると雲泥の差です。
委員	雇用の場がないとか、農業や林業での雇用はあってもそこには魅力を感じないために、若者が都会に出て行ってしまっているのだと思うので、例えば、都会で学んだことを田舎でも実現できるような企業を誘致するなど、魅力ある雇用を生み出す方策を考えていく必要があると思います。
委員	確かに宍粟市は賃金はかなり低いですが、宍粟市でないとできない暮らしというものもあります。星がきれいといった自然の豊かさもあります。そういう宍粟市の売りになる部分をPRするとか、農業とか林業に従事するのは大変だけれども、こういう良さもあるというところをもっとアピールするなど、若い人たちが宍粟に行ってみたいと思うような取組みをもっと考えるべきだと思います。未婚とか晩婚というところも変えていく必要があると思います。
委員	確かに、都会の人で田舎にあこがれる人は多いと聞きます。
委員	他の田舎にはない、宍粟だけの魅力になるようなものがあれば、一回宍粟に行ってみようかと思われると思うのです。そういうことで人口増を狙うというのも方策だと思います。
委員長	交流人口を増やすことによって人口を増やすという仕組みが必要ということだと思います。
委員	去年は最上山や藤まつりに多くの方が来られましたが、何か特別な宣伝等がされたのですか。
副委員長	ニュースで取り上げられたからだと思います。メディアの力は非常に大きいので、行政からいろいろなニュースソースを出していくということも大事だと思います。また、NHKの「軍師官兵衛」は去年で終わりましたが、官兵衛は山崎町に住んだことがあり、ここで二男の熊之助が生まれたのです。そういった官兵衛関連のことも観光資源になります。
委員	人口減少に歯止めをかけるには、子どもの出生数を高めていくことと併せて、未婚率の増加も課題であると思います。3ページの表を見ると、全体的に未婚率が上がっている中で、特に男性の未婚率が高いようですが、2ページの表を

副委員長	<p>見ると、20～35歳の人口は、男性よりも女性が少ないわけではありません。このことから、結婚はしたいと思っているが、相手を見つけれないというミスマッチングがかなりあると考えられるので、そこをサポートしてあげるような施策も必要なのではないかと思いました。</p> <p>社協でのマッチングは、市外在住者は市内に勤務していないと参加できないことや、個人情報保護の関係で情報が十分にもらえないことなど、いろいろな制限があって非常に難しいと聞きます。そういう制約は撤廃して、もっと自由に世話できる環境をつくらなければ、宍粟市の人口増にはつながらないと思います。</p>
委員	<p>私も、知り合いの方から、いい人がいたら紹介してほしいと頼まれたので、宍粟市がやっている婚活の取組みを紹介したのですが、その方は宍粟市外に住んでいるということで参加を断られたそうです。もしかすると結婚して宍粟市に住んでくれたかもしれないので、狭い考え方で制限するのは非常にもったいないと思いました。</p>
委員	<p>Uターン就職について、私は20年前くらいに京都の学校に行っていたのですが、就職先を探す時、宍粟市の求人の情報が全くなく、自分でホームページを見て探しました。現在はどのようになっているか分かりませんが、出ていった人を呼び戻したいのであれば、市内の雇用の情報提供にも力を入れる必要があると思います。</p>
事務局	<p>今のご指摘の点については、確かに戦略的には弱いと感じています。今やっている取組みとしては、産業部が行っている商工の活性化の事業で、高校・大学を卒業される方等を対象に、西播磨管内で合同の就職説明会をしており、それによって宍粟市内に就職した方も複数おられます。また、西兵庫信用金庫さんにビジネス展のご提案をいただき、地元の企業のことをもっと知っていただくため、西兵庫信用金庫、商工会、市と連携して実施していく方向で進めています。市内の団体等の力を結集し、ホームページなども検討しながら、情報発信をしていきたいと思っています。</p>
副委員長	<p>補足ですが、これまでの企業説明会は宍粟市単独で行っていたこともあり、参加企業も参加学生が大変少ない状況でした。そこで、去年は、西播磨の商工会に呼び掛けて合同で実施する形にしたところ、50～60社の企業が集まったのです。広域で行えば、例えば、宍粟市の人佐用に行かれるようなケースもあ</p>

	<p>るものの、たつの市の会社に就職した人が宍粟市に住む可能性もあるわけですから、やはりグローバルに広域で考えていかないといけないと思います。去年の開催では、西播磨にある5つの商工会には協力していただいたのですが、3つある商工会議所には協力いただけなかったので、商工会議所にもぜひ協力いただくよう、行政間で調整して、各市からも呼び掛けていただきたいと思います。</p>
委員	<p>来年からは、3つの商工会議所も一緒にやっていただくようになっています。企業説明の冊子については、商工会がとても協力的で、既に作成して配布しているのですが、まだPR不足なので、今後力を入れて進めていきたいと思っています。</p>
委員	<p>出生率について、目標の2.3というのは高過ぎるように思いますが、どうしてもそれを目指すというのであれば、その数字の合理性を担保するために、例えば近隣の市町の出生率の状況等の資料をバックデータとして取っておく必要があるのではないかと思います。</p>
委員長	<p>これから総合戦略の策定を進めるためには、仮にでも目標を設定して、その目標との関係の中で戦略の合理性を検証していくという形になると思います。そこで、今日は、出生率とか、社会動態による人口のプラスマイナスなど、幾つかのデータを示されていますが、今日の議論の中での結論として、将来人口をどこに目標を置くとしましょうか。</p>
委員	<p>最初の事務局説明で、国が2.07に決めた理由として、現状を維持するためにはそれだけは必要という説明があったと思います。宍粟市は2.3と、国よりもさらに一歩進められた数字にするというのであれば、その差の説明が要るのではないのでしょうか。</p>
委員長	<p>転出・転入の関係を変えるには、宍粟市だけではなく、この地域一帯の構造を変えないといけないという問題もあります。</p>
副委員長	<p>安心して暮らせるとなると、やはりある程度の収入も必要ですので、産業についても考える必要があります。今、宍粟市には基幹産業というのが見当たりませんので、その辺りの議論も必要になってくると思います。</p>
委員長	<p>15ページの目標を設定するかということになると思いますが、いかがでしょ</p>

委員	<p>うか。</p> <p>この資料によると、出生率が2.3になったとしても、社会的な転入も増加させないと人口増にはならないという見通しになっています。つまり、出て行った人が戻ってくるリターンだけではなくて、Iターン者も見込まれていて、それが年間300人とか200人と挙がっています。これもまた、かなりハードルが高い数字だと思うのですが、そこから、現実的なところを我々が判断していくということですか。</p>
事務局	<p>出生率2.3については、委員ご指摘のとおり、難しい数字だとは思っています。2.3にした根拠としては、平成22年の国勢調査で、宍粟市が1.58、国が1.39ということで、国よりも高い出生率であるし、国は1.39から2.07と、伸び率を1.48に設定しているので、宍粟市も同様の伸び率で設定すれば、2.3というのは極端に高いとも言えないのではないかと考えています。</p> <p>社会移動及び総人口については、16、17ページに、さまざまなシミュレーションを示しています。実際の数字を見ると、今の300人の転出超過をプラスマイナス0に持っていくとか、さらに増やしていくということは非常に難しい状況だと思います。しかし、やはり2万人では、できる行政活動も限られてくるので、宍粟市が良いまちだと夢を持って暮らしていただくためには、やはり3万人以上はめざさなければならないと思っています。そのための戦略を次回以降にお示しする予定ですが、その中には、市民の理解も得ないといけなような施策も含まれると思います。3万人以上をめざして取り組んでいかないと、未来の宍粟市はないと思っています。</p>
委員	<p>今、子どもの数が減っているのは、子育てにお金が掛かることにも起因していると思います。1人の子を育てるのに1,300万円掛かると言われています。そのために、子どもを諦めている家庭も多いと思うので、ノルウェーのように大学まで学費を無料にするなどできないのでしょうか。地方創生と言われる中、宍粟市で夢を持って生きていける人を増やすためには、そのような保障をしていくことも大事だと思います。</p> <p>また、お母さんたちの、楽しんで子育てをすとか、子どもがかわいいという感覚が薄れてきているのも気になります。子どもは保育所、老人は施設という感じで、家族の絆が薄れてきているということも問題だと思います。</p>
委員長	<p>結論を出したいと思います。これは最終結論ではなく、仮に定めて議論を進めていくという水準として、3万人ということによろしいでしょうか。</p>

副委員長	<p>宍粟市の行政をやっていくのに最低限必要な人数が3万人ということですか。</p>
事務局	<p>何万人いれば行政サービスが成り立つかというところは、もう一度研究したいと思います。宍粟市内 658 km²ということを見ると、全体ではやはり3万人以上でないと、行政体として十分な市民サービスは提供できないし、市民の皆さんが満足して宍粟市を愛して住んでいただける状況にはならないと思います。</p>
副委員長	<p>播磨町は面積が 10 km²で人口は 4 万人近いことを考えると、その 50 倍の面積を有している宍粟市が同じようなサービスを提供するためには、最低でも 3 万人は必要というのは皆さんも納得できると思います。何が何でも 3 万人は死守しなければいけないということになれば、おのずとそれに即した目標設定やビジョンが描かれてくるとと思いますので、その方向で今後さまざまな意見を出していただくという形で進めるしかないと思います。</p>
委員長	<p>今日の議論の中で、幾つかの課題が挙がりました。例えば、若い女性の動きが見えないという問題、戦略を考える上では、今どんなことをやってきていて、どこにネックがあるのかを解決していかなければ、戦略は立てられないということ、市が取り組んでいることが市民には見えていないという問題、一緒になってやろうというときに情報が共有できていないという問題など、今後のまちづくりのあり方を左右するものもあるので、変えるべきところは変えるなど、考えていかなければならないと思います。</p> <p>3万人と設定するのであれば、常識的な範囲を超えるようなことも考えなければいけないと思いますし、加えて、それだけの財源の捻出をしなければなりません。したがって、市民に我慢していただくところも出てくると思います。人口問題を解決するために取り組むのだという合意づくりをしていくということも含めて、非常に息の長い取組みになってくるかと思います。</p> <p>今日議論したことについては、ご要望のあった幾つかのデータも含めて、整理して次回以降に出していただければと思います。</p> <p>5 . その他 第 3 回宍粟市地域創生戦略委員会の開催日 (7 月 29 日 (水) 午後 2 時に決定)</p>

副委員長	<p>6 . 閉会</p> <p>本日は長時間にわたる慎重審議、ありがとうございました。今から 45 年後の目標を設定し、それを指針として出していくという責任の重さを感じながら毎回出席しております。今後は戦略を考えていくこととなりますが、委員の皆さんは、このまちをどういうまちにしたいかというビジョンをぜひそれぞれで考えていただいて、次回からもいろいろなご意見をいただきたいと思います。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
------	--